

続々足利の伝説

台 一雄 著



続々足利の伝説

台 一雄 著

岩下書店



Shirayama

第二十四話 離れ山

— 遠回りした花嫁行列 —

(五十部町)



離れ山

五十部町宇町田の旧国道五〇号(県道岩舟・桐生線)から南に入る市道町田本線を、ちょっと行くと右手にお寺が見えます。これは大蔵山瑞泉院という曹洞宗(禪宗)のお寺で、宝徳元年(二四四九)上野国金山(今の群馬県太田市)の城主横瀬信濃守貞国の三男長端(在室長端大和尚)の開創と伝えられています。

※寺伝によると、南北朝時代の延元三年(一三三八)新田義貞の開基とあります。

昔は山号を大岩山といましたが、その名からもおわかりいただけるように、初めは大岩邑(現在の足利市大岩町)にあったのを、永正年間(一五〇四〜二〇)四世灯蔭氣舜禪師のとき、五十部邑一本榎の地に移し、寛文十年(一六七〇)に今の字

町田に移したのだそうで、開山は灯蔭禪師になっています。

現在の寺がある山(山というより、丘といった方がびったりくるかも知れません)を、土地の人は「離れ山」と呼んでいます。

西中学校のすぐ東の山を内郷山といい、両毛線の鉄道用地のところで切れています。昔は内郷山が、今の両毛線や旧国道五〇号を越えて離れ山まで続いていたといえます。(離れ山からさらに南へ、渡良瀬川対岸の毛里田村、現在の太田市市場までのびていたという説もあります。もちろんそのころは渡良瀬川も今のところではなく、ずっと南を流れていたのでしょう)

では、なぜ「離れ山」というのかといえますと——大昔、渡良瀬川の洪水で、山の真ん中が押し流されたため、中間に平地ができて、瑞泉院のある山が内郷山から離れてしまいました。だから、離れ山というのだそうです。

この洪水のとき、濁流は三重地区の北の山すそを回って、東山の西から南に流れたといえます。昔はしっかりした堤防がなかったので、大水のときにはしばしば流れが変わったようです。山すそを回る川の流れは、その後もしばらく続いたとみえ、今でも西舟とか船面、船頭山といった川に縁のある地名が残っていますし、東山には深い淵ができました。これが『水使さま』伝説にでてくる「影取りの淵」ですが、現在はありません。



今も残っている嫁子道

期より以前だったことは確かといえるでしょう。

ところで——婚礼の行列が、内郷山と離れ山の中間の平地、つまり、旧国道五〇号を通ると「必ず夫婦別れをすることになる」とのいい伝えがあって、例えば、今の鹿島町から五十部町へ行くのに、わざわざ遠回りして離れ山の南を通ったといえます。それも、離れ山の方を見てはいけないというので、顔を南の方に向けて歩いて歩いたそうです。この道は「嫁子道」と呼ばれて今も残っています。

「昔のご祝儀（結婚式のこと）は、今と違って夜だったから、提灯持ちを先頭にして、馬か人力車に乗った花嫁さんを送っていく行列は、桐生街道（旧国道五〇号）から南に下がり、嫁子道を通っていったもんだ——これは古老の話です。

だが、いつごろいいでしたものかはわかりません。「離れる」という言葉から連想した迷信とあってしまえばそれまでですが、こうした風習はここだけでなく、井草通りの縁切橋、栄町一丁目
の別れの辻、利保町の縁切坂、高松町の別れヶ橋、瑞穂野町の縁切橋など、市内の各地に「婚礼の行列が通らないところ」があったようです。もちろん、こうした風習はせいぜい戦前までで、今ではそんなことを信じる人はいないでしょう。

もう一度、話を瑞泉院に戻して——このお寺に約三十平方メートルの観音堂があります。ご本尊は元禄時代（一六八八〜一七〇三）の作といわれる十一面観世音菩薩ですが、これを中心に左右に十六体ずつ、ご本尊と合わせて三十三体の各種の観音さまが安置されています。

西国三十三観音霊場のご尊像とそっくり同じにつくったものだそうで、この観音堂へお参りすれば、西国三十三観音霊場を巡拝したのと同じご利益があるといわれています。

余談ですが、足利が生んだ幕末の勤王画家・田崎草雲が、禅の修行にこの寺に通い、二十七世の広覚泰林和尚に師事したといえます。和尚の方も草雲を師として絵の勉強をしたようで、達磨大師

この洪水がおきたのはいつのことだったのでしょうか。古老のなかには、奈良時代中期だと聞いたことがあるという人もいます。とすると、およそ千二百年も昔ということになりますが、これとて記録があるわけではなく、口伝ですからハッキリしたことはわかりません。ただし、瑞泉院がここに移ったときは、すでに離れていたといえますので、江戸時代の初

像などいくつかの力作が残されています。

第二十五話 寺岡の元三大師

——かつては臨時列車も出るにぎわい——

(寺岡町)



岡崎山

寺岡町の岡崎山——山というより丘といった方が適切かも知れませんが、この南東側の麓ふもとに薬師寺という天台宗のお寺があります。佐野市の春日岡山惣宗寺の末寺ですが、この寺は「寺岡の元三大師」として有名です。いや、有名でしたというべきかも知れません。なぜとって——それは、この後を読まればおわかりいただけるはずです。

江戸時代の中ごろ、当時の寺岡村に亀田庄右衛門という人がいました。若気のいたりともいいましょか。ふとしたことから故郷を飛びだして、あこがれの花のお江戸に来たまでではよかったですけれど、寄る辺もなく、村を出るとき持ってきた路用の金は使い果たしてしまっって食べ物を買うこともできず、もう三